



# 赤平市の子どもたちの学力・生活習慣の向上に向けて

— 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果報告 —

平成29年12月  
赤平市教育委員会

4月18日に、小学校6年生及び中学校3年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお知らせします。

赤平市教育委員会では、この調査から、市内の児童・生徒の生活面・学習面の傾向をとらえ、教育施策の一層の充実を図ります。保護者の皆様には、ご家庭での生活習慣及び家庭学習の充実に向け、学校と連携したご協力をお願いいたします。

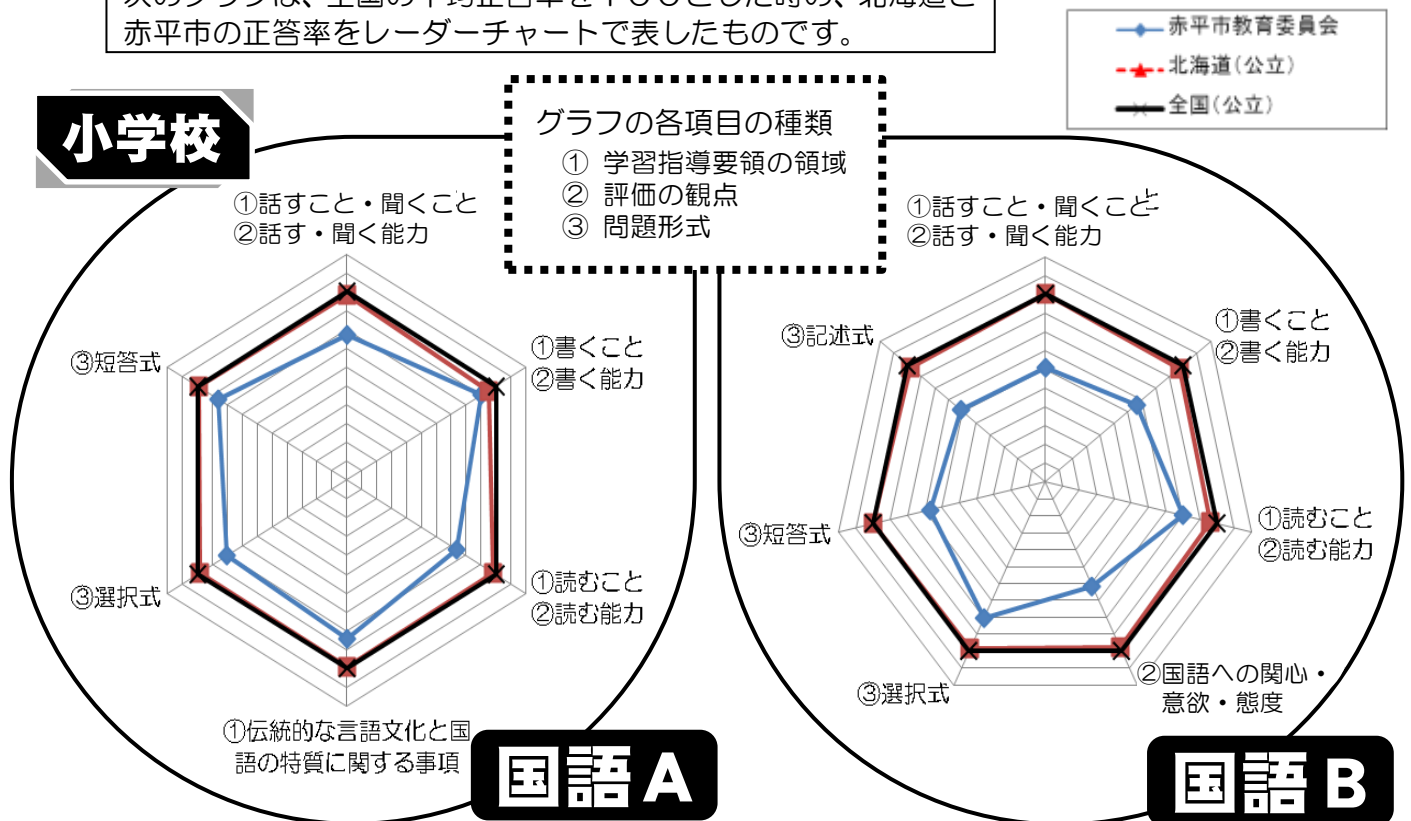
なお、この調査は学力の一部をはかるものであることをご承知おき願います。

## 1 学力の状況

**A問題：**主として「知識」に関する問題（身につけておくべき基礎的な知識や技能）

**B問題：**主として「活用」に関する問題（知識や技能を実生活の場に活用する能力）

次のグラフは、全国の平均正答率を100とした時の、北海道と赤平市の正答率をレーダーチャートで表したものです。



### <国語A>どの項目も、全国の平均正答率を下回っています。(75~95%)

#### ①領域別・②評価の観点の状況について

○全国との差が最も小さいのは『書くこと』の領域であり、特に、「手紙の構成を理解し、後付けを書く」問題は、全国との差が5ポイント程度となっています。

▲『話すこと・聞くこと』『読むこと』『伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項』については、全国と比べて10ポイント以上下回っており、特に、『読むこと』については課題が大きく、「目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む」問題は、全国と比べて30ポイント以上下回っています。

#### ③問題形式別の状況について

▲選択式・短答式のどちらも、全国と比べて10~15ポイント程度下回っています。

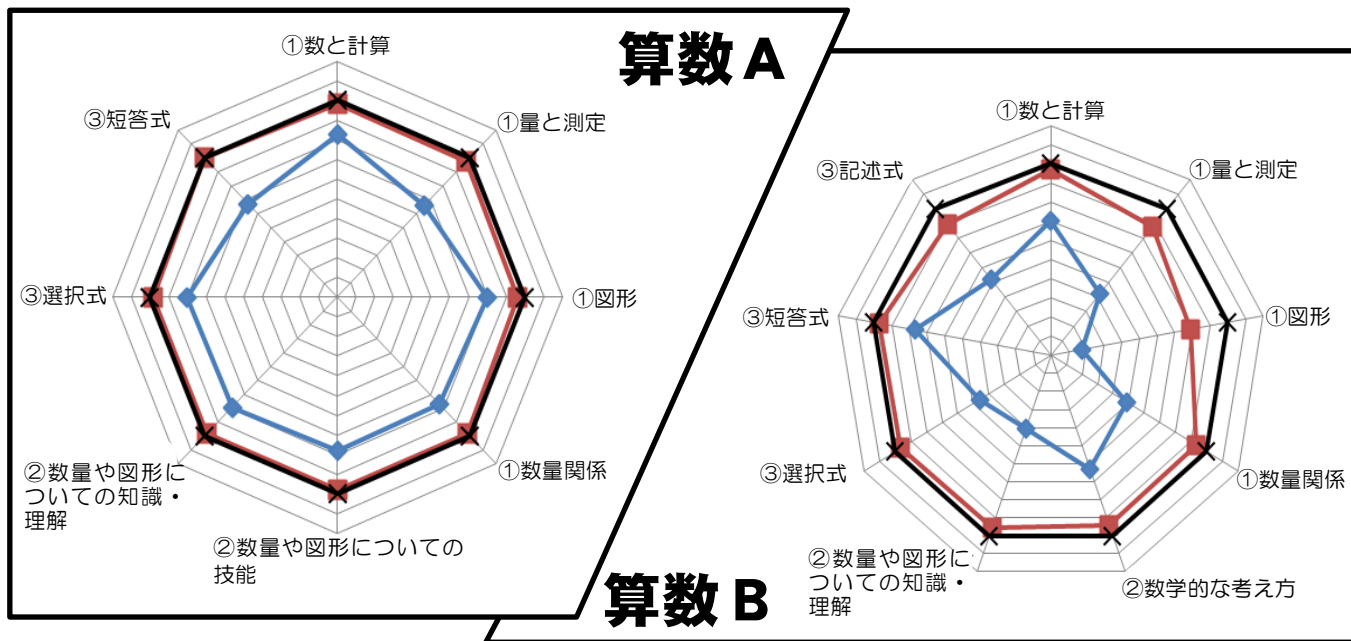
**<国語B>どの項目も、全国の平均正答率を大きく下回っています。(60～85%)**

**①領域別・②評価の観点の状況について**

▲どの領域も、全国と比べて10ポイント前後から20ポイント程度低く、特に、「目的や意図に応じて文章全体の構成を考える」問題は、全国と比べて30ポイント以上下回っています。

**③問題形式別の状況について**

▲選択式・短答式・記述式のいずれも全国より低く、特に、選択式・短答式は全国と比べて20ポイント程度下回っています。



**<算数A>どの項目も、全国の平均正答率を下回っています。(65～85%)**

**①領域別・②評価の観点の状況について**

○『数と計算』の「整数のかけ算」の問題は、全国よりも10ポイント以上高い結果となっています。

▲全国と比べて20ポイント程度下回っている設問が、15問中7問あり、全ての領域で課題が見られます。

**③問題形式別の状況について**

▲選択式・短答式のどちらも、全国と比べて15～20ポイント程度下回っています。

**<算数B>どの項目も、全国の平均正答率を下回っています。大きく下回っている項目もあります。(15～80%)**

**①領域別・②評価の観点の状況について**

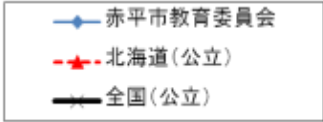
▲『数と計算』および『図形』の領域では10ポイント以上、『量と測定』および『数量関係』の領域では20ポイント以上、全国と比べて、それぞれ下回っています。特に、『数量関係』の領域で「飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶ」問題や、「示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を選ぶ」問題は、全国を30ポイント以上下回っています。

**③問題形式別の状況について**

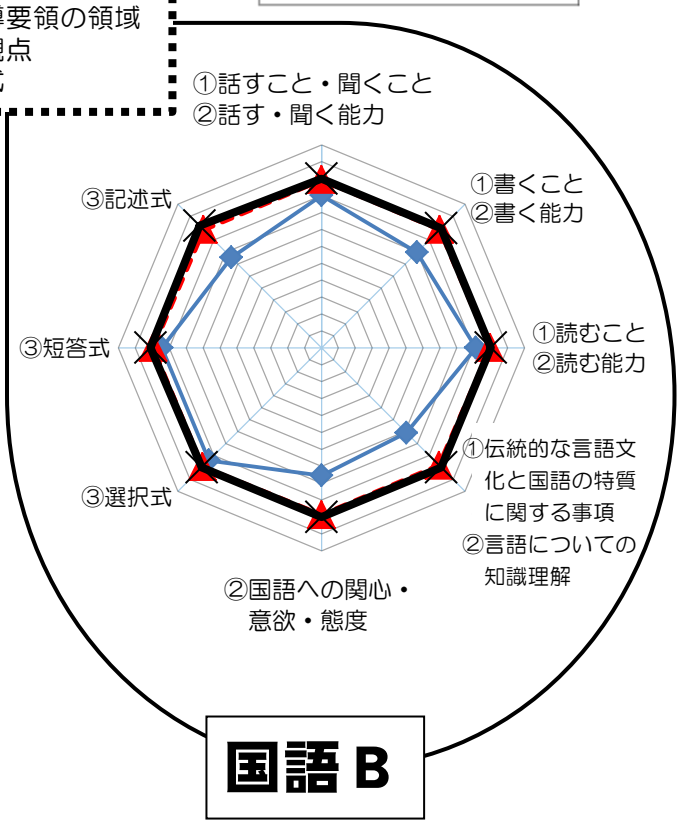
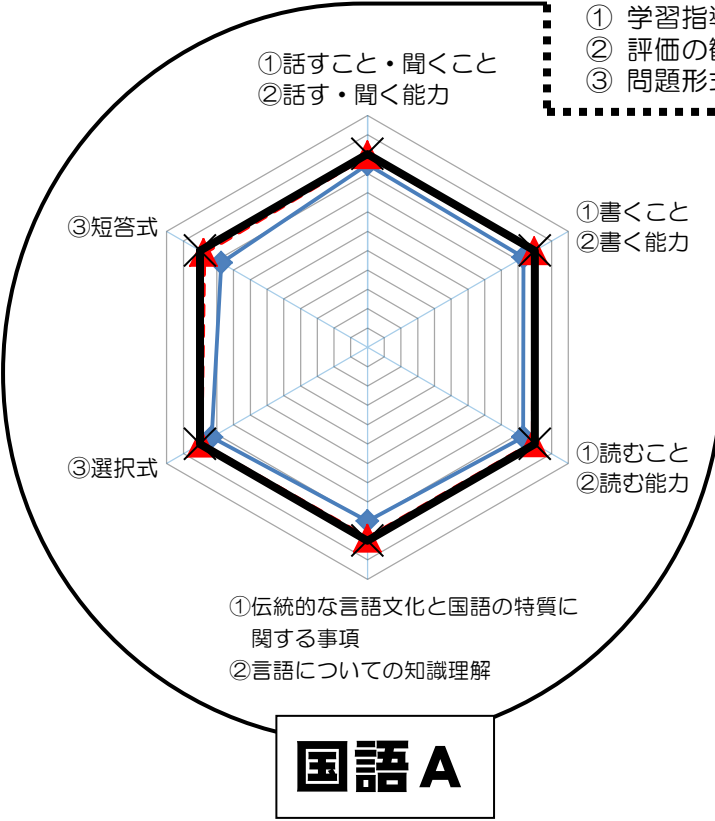
▲選択式・短答式・記述式のいずれも全国より低く、特に、選択式は全国と比べて30ポイント程度下回っています。

また、記述式は、無解答率が全国と比べて10ポイント以上高くなっていることも課題です。

# 中学校



グラフの各項目の種類  
 ① 学習指導要領の領域  
 ② 評価の観点  
 ③ 問題形式



**<国語 A> どの項目も、全国の平均正答率を下回っています。(90~95%)。**

**①領域別、②評価の観点の状況について**

○「文脈に即して漢字を正しく読むこと」「助詞の働きについて理解すること」「文章の構成・表現の特徴・表現の仕方などを理解すること」が、全国とほぼ同様となっています。

▲「話し言葉と書き言葉の違いを理解する力」が、全国と比べて15ポイント程度下回っています。

▲「場面の展開や人物の描写に注意して読み、内容を理解する力」が、全国と比べて10ポイント程度下回っています。

**③問題形式別の状況について**

▲記述式は、全国と比べて10ポイント程度下回っています。

**<国語 B> どの項目も、全国の平均正答率を下回っています。(70%~95%)。**

**①領域別、②評価の観点の状況について**

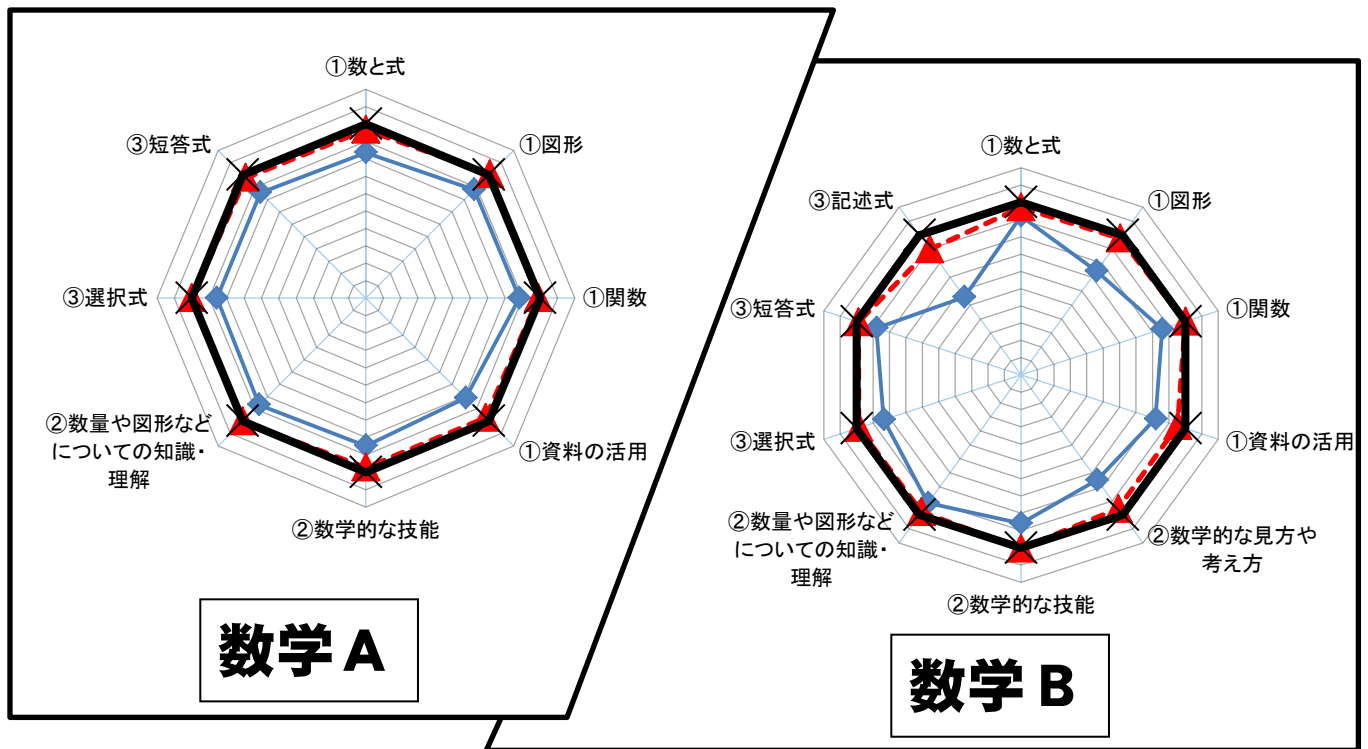
○「登場人物の言動の意味を理解する力」や、「目的に応じて資料を効果的に活用する力」が、全国とほぼ同様となっています。

▲「スピーチの内容と聞き手の意見を総合しわかりやすく表現する力」が、全国と比べて15ポイント程度下回っています。

**③問題形式別の状況について**

○選択式や短答式は、全国と比べて5ポイント程度下回っていますが、全国との差が縮まってきました。

▲記述式は、全国と比べて20ポイント程度下回っています。



**<数学 A> どの項目も、全国平均正答率を下回っています。(80%~90%)**

**①領域別、②評価の観点の状況について**

○「正負の数」、「角の意味・平行図形の作図」が、全国とほぼ同様となっています。  
 ○4 観点のバランスは良い(極端な上下がない)ですが、全体的な学力の底上げが求められます。

▲小学校で定着しておかなければならない四則計算や図形の面積の求め方等が、全国と比べて10ポイント程度下回っています。

▲数学的な技能(正しく計算や処理ができる力)が全国と比べて15ポイント程度下回っており、解き方が理解できていても計算ミスや符号の間違いなどをしてしまう傾向があります。

**③問題形式別の状況について**

▲特に、短答式は、無解答率が全国と比べて10ポイント以上高くなっている問題が数問あります。

**<数学 B> どの項目も、全国平均正答率を下回っています。(55%~90%)**

**①領域別、②評価の観点の状況について**

○『数と式』は全国と比べて5ポイント程度下回っていますが、計算の力が徐々についてきています。

○『数量や図形などについての知識・理解』は全国と比べて10ポイント程度下回っていますが、知識の基本的な活用が少しずつできるようになってきています。

▲「論理的に図形の証明をすること」は、全国と比べて20ポイント程度下回っています。

▲『数学的な見方や考え方(数学の様々な知識・技能を活用して解く力)』は、全国に比べて20ポイント程度下回っています。

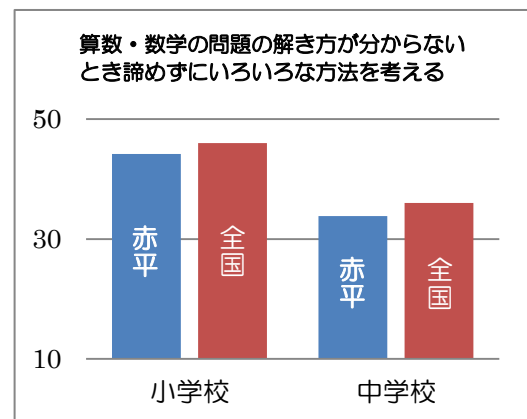
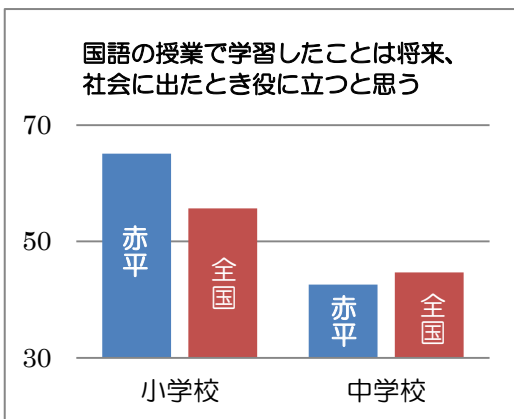
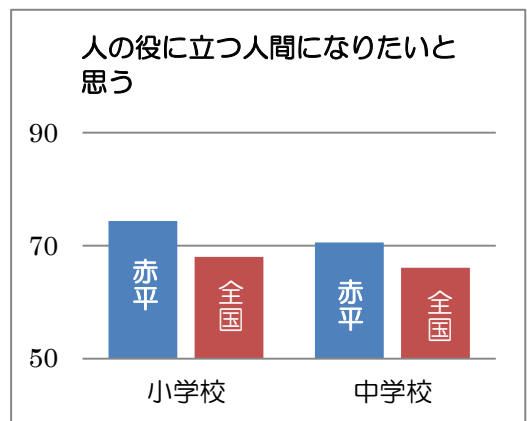
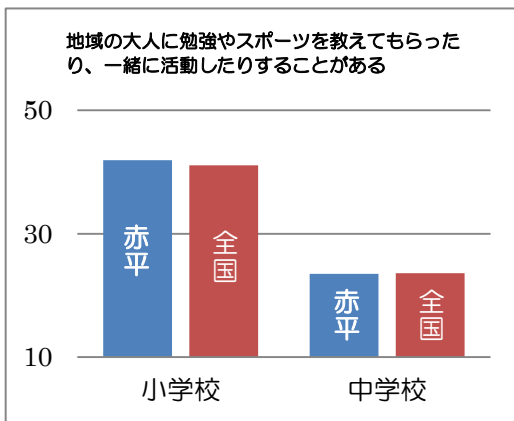
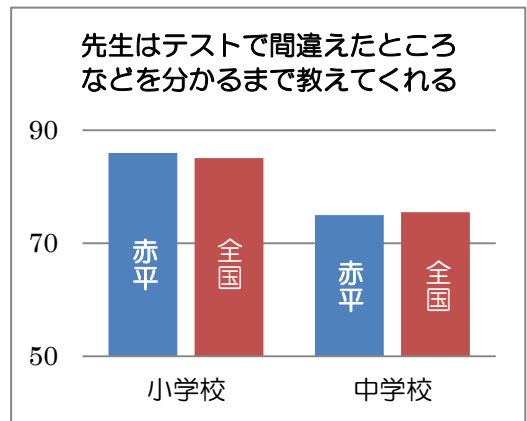
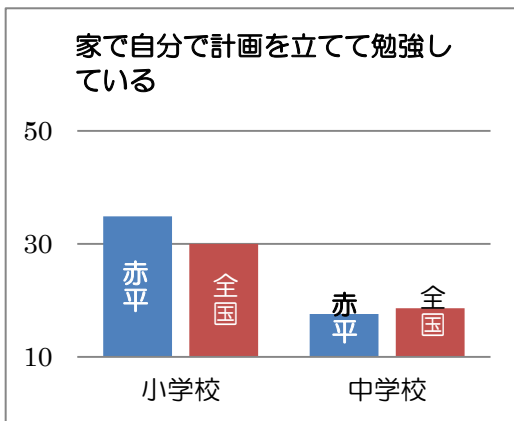
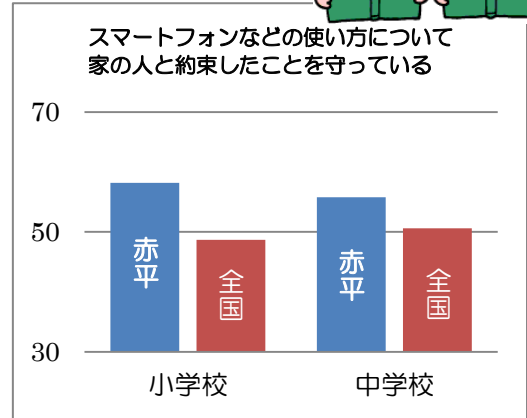
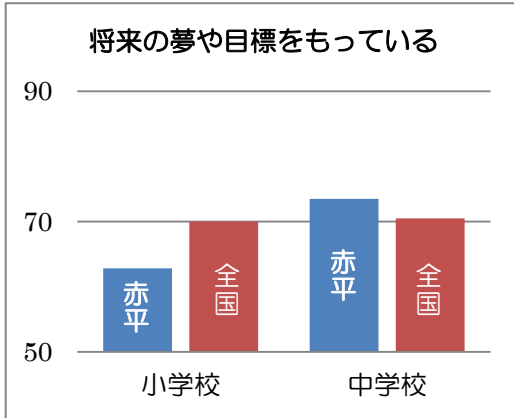
**③問題形式別の状況について**

▲記述式は、全国と比べて30ポイント以上下回っており、無解答率が全国と比べて15ポイント程度高くなっていることも課題です。

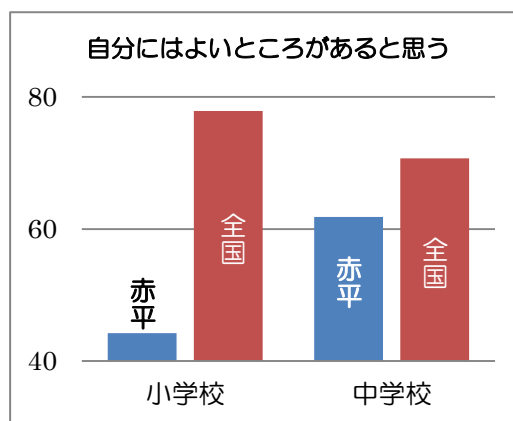
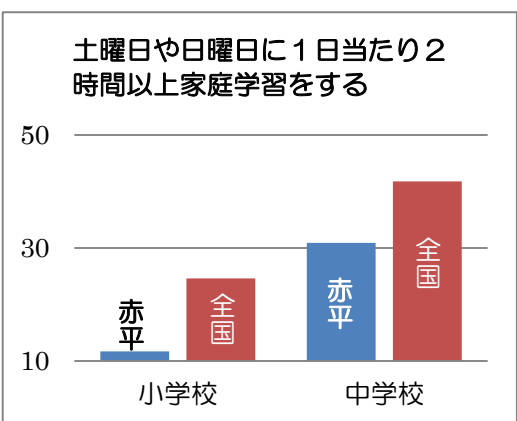
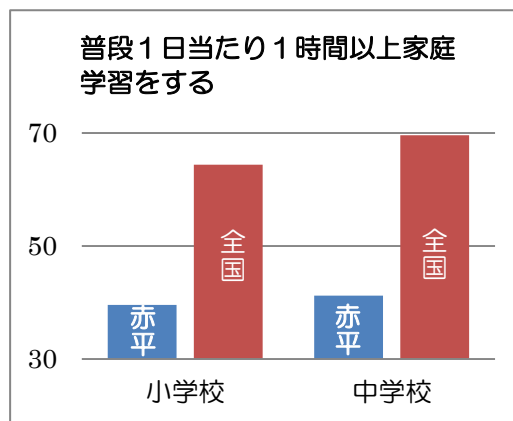
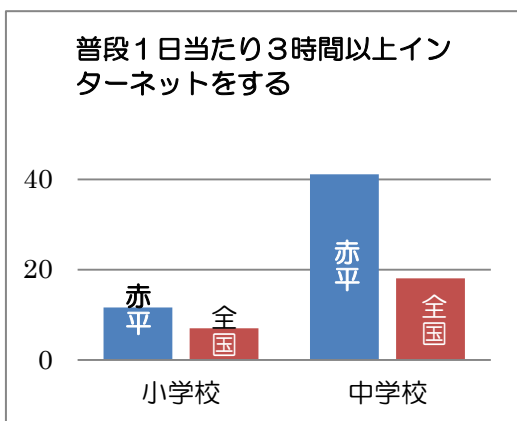
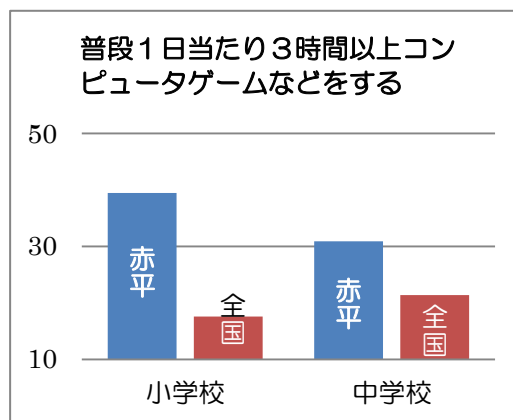
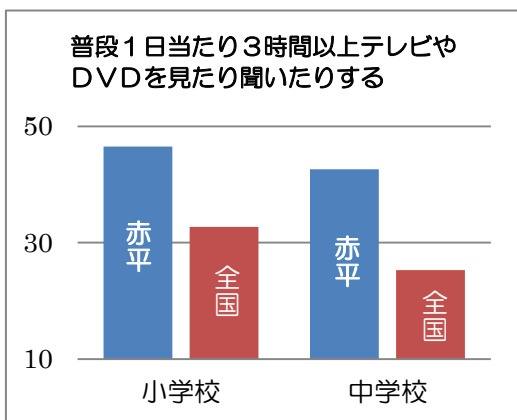
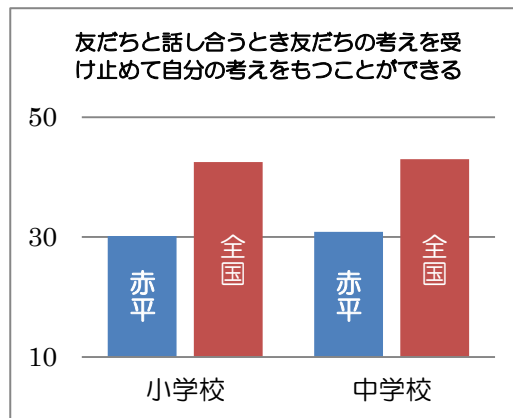
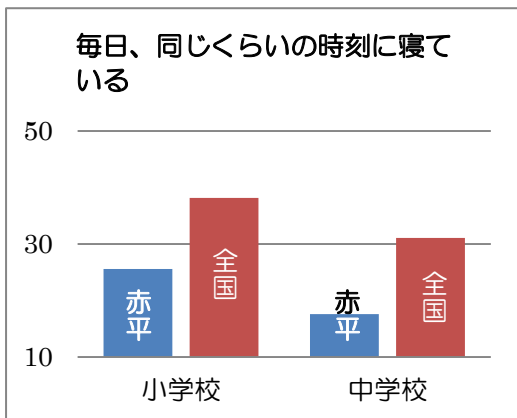
## 2 児童・生徒質問紙調査結果（抄）



### （1）【全国平均とほぼ同様の状況にある項目】

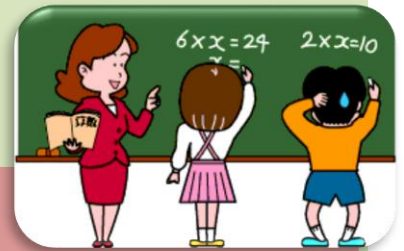


(2) 【全国平均と比較して改善が必要と判断される項目】



### (3) 児童・生徒質問紙調査結果から

- 将来の夢や目標をもっている割合は、小学生は全国よりやや低いですが、中学生は全国より高くなっています。
- スマートフォンなどの使い方の約束を守っている割合は、小学生も中学生も全国より高くなっています。
- 家で自分で計画を立てて勉強している割合は、小学生が中学生に比べて高く、かつ、全国より高くなっています。
- 先生は間違えたところなどを分かるまで教えてくれると考えている割合は、小学生も中学生も全国とほぼ同様の傾向にあります。
- 地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に活動したりすることがある割合は、小学生も中学生も全国とほぼ同様の傾向にあります。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う割合は、小学生も中学生も全国より高い傾向にあります。
- 国語の授業で学習したことは将来、社会に出たとき役に立つと思う割合は、特に、小学生が中学生に比べて高く、かつ、全国より高くなっています。
- 算数・数学の問題の解き方が分からないとき諦めずいろいろな方法を考える割合は、小学生も中学生も全国とほぼ同様の傾向にあります。



- ▲ 毎日同じくらいの時刻に寝ている割合は、小学生も中学生も全国より約10ポイント低くなっています。
- ▲ 友だちと話し合うとき、友だちの考えを受け止めて自分の考えをもつことができる割合は、小学生も中学生も全国より約10ポイント低くなっています。
- ▲ 普段（月～金曜日）、1日当たり3時間以上テレビやDVDを見たり聞いたりする割合は、小学生も中学生も全国より約15ポイント高くなっています。
- ▲ 普段（月～金曜日）、1日当たり3時間以上コンピュータゲームをする割合は、小学生も中学生も全国より約20ポイント高くなっています。
- ▲ 普段（月～金曜日）、1日当たり3時間以上インターネットをする割合は、特に、中学生は全国より約20ポイント高くなっています。
- ▲ 普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上家庭学習をする割合は、小学生は全国より約25ポイント、中学生は約30ポイント低くなっています。
- ▲ 土、日など休日に、1日当たり2時間以上家庭学習をする割合は、小学生も中学生も全国より約10ポイント低くなっています。
- ▲ 自分にはよいところがあると思う割合は、小学生は全国より約30ポイント、中学生は約10ポイント低くなっています。

### (4) 家庭・地域へのお願い



当市の子どもたちは、勉強に対する必要感をもち、学校の授業や家庭学習に取り組んでいるものの、勉強する時間が大変不足しています。特に、勉強する時間が、テレビやコンピュータゲーム、インターネットに奪われています。そのため、就寝時刻が一定していない傾向もうかがわれます。

子どもたちの将来の職業選択を考えると、基礎学力の定着は必須であり、そのためには、家庭学習の時間を確保すること、家庭生活のリズムを確立することが必要です。子どもたちの将来の夢や目標を実現するため、学校から示されている家庭学習の時間は最低限確保するよう、お願いします。

また、当市の子どもたちは人の役に立つ人間になりたいと考えている一方、自分に自信がもてずにいます。そのため、家庭で役割を与え、自分の責任を果たす喜びを味わわせたり、地域

のボランティア活動に親子で参加し、一緒に汗を流す体験を通して社会貢献の意義を体感させたりするなど、自己存在感が自覚できる経験を積み重ねていくことが大切です。

赤平の将来を背負っていく子どもたちに、計画的、継続的に社会性や責任感を育てていくよう、それぞれの立場でお力添えをお願いします。

### 3 今後の取組

#### (1) 目標

**全国学力・学習状況調査における教科に関する全ての調査において、全国の平均正答率を目指す。**

#### (2) 重点

##### <小学校>

- 国語では、『読む能力』を高めるため、特に、目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む学習活動を充実させていきます。また、読み取った内容全体の構成を考えたり、整理してまとめたりする学習も行っていくことで、学力向上につなげていきます。
- 算数では、重さや長さなどの単位に関する問題や、平均を求める問題、割合を適用する問題など、高学年の学習内容の正答率が低かったことから、算数の各領域における低・中・高学年の系統性を踏まえた指導を進めていきます。また、既習事項の学び直しや繰り返しの学習の機会を意図的、計画的に設けます。  
記述式の問題に対する無解答率が高いことから、学習課題に対する自分の考えを書いたり、説明したりするなど、言語活動を位置付けた指導を進めます。

##### <中学校>

- 国語では、『書く能力』を高めるため、特に、「自分の考えや意見などを正確に伝える論理的な文章を書くことができる」能力を育成する学習活動を充実させていきます。また、客観的な根拠や理由を明確にすることや、読み手が理解しやすい構成を意識して論理的な文章を書くことなどの学習活動を行います。
- 数学では、各領域における基礎的・基本的な知識・技能を定着させるため、自力解決の意欲や能力を育成し、繰り返しの学習を習慣づける指導を行います。また、数学的な見方・考え方に関する能力を高めるため、演習問題をより多く経験させながら、既習事項を活用したり、筋道を立てて考えたりする学習活動を進めます。

##### <家庭>

- 生活リズムを整え、毎日決まった時間に机に向かって宿題や予習、復習をする習慣を身に付けさせます。
- 「ノーゲームデー」など、コンピュータゲームやインターネットをしない曜日を設定するなど、家庭学習にきちんと取り組ませるための約束を決めます。



## <地 域>

- 子ども会や育成会の活動の中で、子ども1人1人に役割を与え、その責任を全うすることで自信と責任感を養います。
- 親子で参加し汗を流して活動できるボランティア活動などの社会体験活動の機会を設定し、社会貢献の意義を実感できるようにします。

### (3) 教育委員会の施策

- ①新学習指導要領の理念等を踏まえた適切な教育課程の編成・実施を進めるよう指導します。
- ②道教委のほっかいどう学力向上推進事業「授業改善等支援事業」や、ほっかいどう「チャレンジテスト」などを全ての小・中学校で行います。
- ③全国学力・学習状況調査における赤平市全体の結果と考察を公表します。
- ④関係機関と連携し、習熟度別少人数指導やチーム・ティーチングのための人的措置等を充実させます。
- ⑤赤平市学生ボランティア活用事業による小・中学校への支援を行います。
- ⑥全ての小・中学校で校内研修を充実させ、教師の指導力の向上を図ります。
- ⑦全ての小・中学校で家庭学習の手引などを作り、家庭学習の啓発に努めるよう指導します。
- ⑧関係機関・団体と連携し、地域で子どもを育てる環境づくりを進めます。
- ⑨学習支援員、学校支援ボランティアなどの人的確保・配置に努めます。
- ⑩ICT(情報通信技術)の整備・充実に努めます。
- ⑪小学校と中学校の連携を強め、9年間を見通した学びの連続性の確保に努めます。
- ⑫読書活動の充実に努めます。
- ⑬ALT(外国語指導助手)の派遣による英語教育や外国語活動の充実に努めます。

### (4) 小・中学校の取組

上記の教育委員会の施策に基づき、学校の実態に応じた取組を組織的・計画的に推進します。

- ・「ほっかいどう学力向上推進事業」を計画的に進めます。
- ・基礎・基本の定着を図る学習指導を充実します。
- ・教師の指導力を高める校内研修を充実します。
- ・補足的な学習サポートの機会を充実します。
- ・家庭学習の手引を作成するなど、家庭と連携して家庭学習の充実を図ります。

※各小・中学校の取組については、学校だよりなどでお知らせいたします。

赤平市の子どもたちの健やかな成長と  
将来の夢や希望の実現のために、  
地域を挙げて学校へのご支援をお願いします。

